

ICTイノベーション創出事業
(ICT実践人材育成事業)

事業評価個票					部局名	企画振興部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ7 地域活力と多様な交流を生み出し災害に強い県土基盤の形成						
	施策	施策2 新たな社会資本としてのICTの利活用拡大						
	目的	「超スマート社会」の到来が予想される中、新たな価値の創造や生産性の向上、暮らしの質の向上をもたらすICTの活用を積極的に進めていく。						
	目標指標(H32)	県内のインターネット利用率	80.0%					
	策定時の実績	70.5%(H27年度)	現状	70.5%(H27年度)	主要事業	ICT利活用推進のための基盤や体制の充実		
事業名	ICTイノベーション創出事業 (ICT実践人材育成事業)			担当課・担当	情報政策課 ICT企画担当			
事業開始年度	平成30年度			事業終了(予定)年度	平成34年度			
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	県内の様々な分野において、ICTを活用した先導的事業を展開することによりイノベーションを創出。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	農業、工業、商業、医療、福祉など本県の各産業分野でICTによるイノベーションを創出するため、ビッグデータやAI、IoTなどを現場で活用できる実践的人材を育成するための専門講座を開催。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他 上記実施方法とする理由: 県・民間企業等で構成される協議会(今後設置)が事業の実施主体となるため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度		
	ICT実践人材育成事業	-	9,400					
	計	-	9,400	0	0	0		
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	-	4,650					
	一般財源	-	4,750					
	計	-	9,400	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	ICT実践人材育成事業・受講者数(累計)	活動実績	受講者数					
		当初見込み	受講者数	-	20	40	60	80
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)		単位	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
	ICT実践人材育成事業・受講者のアンケートでの「満足」「やや満足」の回答割合	成果実績	回答割合					
		目標値	回答割合	-	70%	80%	90%	100%
		達成度	%					
関連事業	なし							

事業目標の考え方(事業目標設定時)

当該事業は、ビッグデータやAI、IoTなどを現場で利活用できる実践的人材を育成する専門講座を開催し、農業、工業、商業、医療、福祉など県内各分野でICT導入を企画できる人材の輩出を図るものである。このため、受講者数を活動指標に設定し、専門講座終了後、受講者を対象に実施するアンケート結果を成果指標として設定する。アンケートは、満足・やや満足・ふつう・やや不満足・不満足の5段階で実施する。

事業所管部局による評価・検証（平成30年度）

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		
	目標水準は妥当か。		
	期待する成果が得られたか。		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		
	支出先の選定は妥当か。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。		
の役割妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。		
今改後の課題等			

・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。

- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。

ー: 該当しない